

67年目の夏

原水爆禁止 2012年世界大会に参加して
尾島 忠

8月04日(土)12時ごろ、会場(広島県立体育館)に到着し、受付を済ませ、13時からの原水爆禁止岡山県協議会の県代表団団結式に参加しました。この中には、同僚の猪熊さんの息子さんも参加しているとのことだったので、周りを見渡しましたが判りませんでした。(参加者:170名)

13時半、グリーンアリーナへ移動し、開会総会へ参加しました。



今年のテーマは、「核兵器のない平和で公正な世界のために」で、2年前(2010年5月)のNPT再検討会議で合意された「核兵器のない世界の平和と安全」を実現すること、この実行が問われています。

「核抑止力」の維持や「核の傘」の強化を主張する強固な抵抗勢力の壁をいかに崩していくかが、求められています。

3・11の東電福島第一原発事故は、原爆が投下されてから67年、薄れかけていた核被害の恐ろしさを再認識させられました。

いまこそ被爆国として「非核三原則」を厳守し、憲法第9条を守り、生かすことを目指していくことが求められています。

国内、海外の草の根の運動について、発言がありました。「2015年核兵器全面禁止のうねりを」広げるために！ヒロシマ・ナガサキから世界へ！

2日目、4時に起きて、ホテル(アネックス:稲荷町)から平和公園までランニングを1時間ほどしました。朝の空気がとても気持ちよかったです！！前日は、1時頃までオリンピックに見入ってましたが。平和公園では、早朝にも関わらず、警備のためか人の姿が。

9時半から、広島県社会福祉会館で、分科会6:憲法9条と原水爆禁止運動に参加し、各地の憲法9条改悪反対、核兵器廃絶、非核の日本を求める運動を交流しました。



40人を超える発言があり、北海道から沖縄まで、各地の方から現状やこれからの課題・問題点等が発信されました。中でも、会場を盛り上げたのは、長野県の方で、世代交代を最近したのですが、年配の方が全員隠居されてしまい、これまでの活動を引き継がれないままに大変苦勞しました。世代交代したからといって平和活動を完全に引退されるのではなく、一生行うものですので、他県の方もそのつもりでお願いしますと…。うーん、生協労組おかやまの将来のような…？

このあと、広島平和記念資料館と本川小学校(去年に続き)を見て回りました。



16時半から、ホテル(プロヴァンス21広島)で生協労働者のつどいに参加し、放射能の危険性、内部被爆とはについて学習しました。(講師:広島県被団協常務理事 高東征二氏)



赤:大雨地域
青:小雨地域
黒:増田降雨図(1988年)
黄:最新のアンケートに基づく指定降雨エリア

広島市・県は、3万7千人を対象に実態調査を行い、2010年に「黒い雨は、国の指定地域の6倍の範囲に降り、本指定地域住民は被爆者に匹敵する健康不良状態」との報告書を発表し、政府にその全域を被爆地に指定するよう要望したが、結果として厚労省はこれを認めなかった。

広島原爆直後に広範囲に降った黒い雨や埃・塵などで放射能に被爆し、がんなどの病気になっているのに、いまだに被爆者として認められていないそうです。いわゆる内部被爆は、基準もなく、放射性降下物の被害は小さいとされ、無視されてきたそうです。このことは、福島でも同じことだそうです。

67年経った今も、過去のものではなく、苦しんでいる人がいます。また、原発事故を契機に新たに内部被曝の危機が迫っています。時間とともに記憶は薄れがちになりますが、常にこの問題は近くにある事を忘れずに！！！！

最後に、今年は青森・広島と平和活動に参加させていただき、ありがとうございました。みなさんも、広島や長崎の原水禁世界大会に行ってみませんか。過去のものではなく、現在も未来も、永遠に語り継がれていくことを願います。